

科目名	舞台実習 I						年度	2025	
英語科目名	Stage Practice I						学期	前期	
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	105	単位数	3	種別※	実習+実技
担当教員	長谷川 浩司、松橋 頼良	教員の実務経験		有	実務経験の職種		俳優		
【科目の目的】 舞台空間を設定、戯曲の世界観を個人やグループで演劇戯曲を立体化する。都度、発声力、歌唱力をチェックしながら、作品理解、人物理解が学生一人ひとりになされているか確認し戯曲を完成させていく。舞台実習Ⅲと連動し、観客に見せるための舞台を総合芸術としての演劇もしくはミュージカルを創り上げていくこと。									
【科目の概要】 舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学ぶ。									
【到達目標】 学生が舞台空間で生き抜くことの難しさを実感し、実践することで俳優業を理解することを目標とする。役者として活動を続けるために必要な努力を模索し、更に、発声力、歌唱力、身体表現力をより発展させ、よりクオリティの高いものを目指しながら、今後の進路、役者としての仕事を深く考察できる力を養うことも目標に加える。									
【授業の注意点】 学生の心身が健全、健康であることを何より優先する。学生とのコミュニケーションを重視し、明るく、清しい授業空間を作ることが肝要である。また、快活で積極的な授業参加を求めため理由のない遅刻や欠席は認めない。態度が改善されない場合、配役の変更や降をすることも有る。授業時数の4分の3を出席しない者は定期試験を受けることができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とプレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができており、息の量が少なくなつた時に咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別して行うことができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとして、授業内において出席意欲が感じられない。				
到達目標 C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語ることができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見える。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標 D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる	自分の役を理解し、他者の感情を考慮し用としているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとして、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
【教科書】 演劇戯曲の台本を中心に使用、必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		舞台実習 I			年度	2025
英語表記		Stage Practice I			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	「舞台空間に生きる」をイメージする	イントロダクション	1 自己紹介	自分をプレゼンテーションする	2	
			2 他己紹介	相手をしっかり知ること		
			3 P L A Y	一生懸命あそぶ(演じる)こと		
2	グループで創る(1)	立ち居振舞い	1 立つ	身体の使い方を学ぶ		
			2 歩く			
			3 走る			
3	グループで創る(2)	五感を研ぎ澄ます	1 心	演技とは何かについて学ぶ		
			2 技			
			3 体			
4	成果発表用の戯曲を創り上げる(1)	シナリオ分析	1 創作	発想～発声まで		
			2 音	BGM/効果音を研究する		
5	成果発表用の戯曲を創り上げる(2)	戯曲	1 役を演じる	戯曲を読み込み配役された役に挑戦する		
6	成果発表用の戯曲を創り上げる(3)					
7	成果発表用の戯曲を創り上げる(4)					
8	成果発表用の戯曲を創り上げる(5)					
9	成果発表用の戯曲を創り上げる(6)					
10	成果発表用の戯曲を完成させる(1)					
11	成果発表用の戯曲を完成させる(2)					
12	舞台公演を振り返る				反省会	1 映像
		2	共演者全体の演技を確認する			
13	「舞台空間で生き抜く」の探求(1)	感情開放	1 コミュニケーション	仲間を信頼し交流すること		
14	「舞台空間で生き抜く」の探求(2)					
15	「舞台空間で生き抜く」の探求(3)					

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等